

# デジタルイノベーションとイノベーション政策

○林 和弘, 吉本 陽子, 佐藤 遼, 鈴木 羽留香

[https://doi.org/10.20801/jsrpim.34.3\\_270](https://doi.org/10.20801/jsrpim.34.3_270) 2019/10/25発行

## (5) デジタルイノベーションとイノベーション政策 (小林先生要約)

- デジタルイノベーションとは、既存のシステムやサービスの単なる電子化を超えて、従来の科学技術研究や社会産業の枠組みとサービスや慣習を抜本的に変えることを意味する。
- 科学、産業、社会は変容を加速させており、大学、企業や経済、法律の仕組みにも非連続な変革の兆しが見えている。
- このような変革期には、イノベーション政策の枠組も抜本的に変える必要がある。イノベーション政策の形成においてもデジタルイノベーションが必要であり、包摂性、即時性、柔軟性などを備えた仕組みと小規模かつ迅速な試行の繰り返しが必要となる。

(特集に寄せて第6期科学技術基本計画へ向けた政策研究からの視座～科学技術イノベーション政策の未来へ～)

# デジタルライゼーションとイノベーション政策

○林 和弘, 吉本 陽子, 佐藤 遼, 鈴木 羽留香

[https://doi.org/10.20801/jsrpim.34.3\\_270](https://doi.org/10.20801/jsrpim.34.3_270) 2019/10/25発行

## ✓デジタルライゼーション→DX

- DXの本質は技術革新自体ではなく、認識や行動の変容にあり

## ✓情報・知識の（相対的）オープン化による、学術、産業、教育の変革

- 科学研究自身のDX（遠隔、ロボット、バーチャル、アカデミアの場の変化）
- 成果の価値付けの多義化（理想的ではあるが、運用が困難）

## ✓既存サービスのゲームチェンジから社会秩序の再構築へ

- ゲームチェンジの対象粒度が大きくなり、社会秩序の再構築が求められる現状。
- 新しい慣習から、社会制度の転換、法律の改正へ（研究データ基盤整備とデータの利用権限）

## ✓政策づくり自身のDXの最新取組事例

- “包摂性、即時性、柔軟性ある、小規模かつ迅速な試行”の繰り返し
  - 【文部科学省科学技術改革タスクフォース戦略室関連活動として】
    - 1) プレプリントに関する政策分析を有志により試行（本大会：1C07「知」の生産活動におけるプレプリントの意義と役割：arXivからのエビデンス）
    - 2) オープンサイエンス、DX化、フリーランス化の動きを捉えた新たな研究者・活動を考える有志による検討を開始（同戦略室報告書（8月公表、本大会：2F09コロナ禍を踏まえた「新しい現場主義」での科学技術政策の検討結果報告）の一部の議論を継続。内閣府CSTI、日本学術会議若手アカデミーとの連携を見据えて活動中）
  - 科学研究のDXを包摂的に捉えてテーマを設定、局を跨いだチーム編成【にさらに政策研究者が合流し、】短期間に成果を共有（zoom, Overleaf（クラウド共同執筆ツール）を用いて2ヶ月以内に学会発表するなど）

COVID-19による予期せぬ加速と具体的なイメージの強制想起